

2018年度協定留学プログラム
派遣学生留学状況報告書

非公開希望	項目	内容
	所 属	法学部 法学科 2年（留学年次） 3年（帰国年次）
原則 公開	留学先	※大学名、学部、学科名を記入してください。 復旦大学 国際文化交流学院
原則 公開	留学期間	※実際の留学期間（留学先での授業期間）を記入してください。 2018年 9月 3日 ～ 2019年 6月 29日 出国日 2018年 8月 26日 最終帰国日 2019年 7月 7日

留学の状況について、各項目について書いてください（合計1,500字以上）。これから海外留学をする学生にとって貴重な情報となりますので、なるべく仔細な記述をお願いします。

1. 留学全般について

(1) 留学当初の所感（第1・2回目報告書記載）について、自己評価や、留学前からの意識の変化等

留学当初の目的は、中国語・英語の上達と、成長著しい中国の現地の姿を生で体感し、国際理解の素養を身に付けることでした。

中国語能力は留学前と比較して大幅に向上し、日常会話含めて生活に困ることはほとんどなくなりました。また、言語の理解を通じて文化的背景なども考えられるようになったと思います。他方、英語能力は中国語ほどの伸びではなかったものの、コミュニケーションツールとしての会話力は上達しました。

当初、中国に対する価値観は、「日本より人口も国土も大きい国、経済発展の勢いが目立つ国」といった大雑把な印象しかありませんでしたが、国際都市：上海での生活を通じて「国土・人口の大きさのみならず、日本よりもはるかにバイタリティに溢れ、国も人々も企業も全体が上に向かって力強く歩んでいる国」という具体的な印象に変わりました。

(2) 留学前にもっと準備をしておけばよかったと感じること

中国語は、日本語の漢字と共有部分も多いので、「読み」「書き」はさほど苦勞しませんでした。しかし、「話す力」「聞く力」は圧倒的に不足していました。会話力を鍛えるために、事前に学習院大学に留学している中国人と積極的にコミュニケーションをとったり、外部の語学交流会などに参加しておけば良かったと思います。また、中国生活にいち早く慣れるために、出発前から、日本国内で中国国営ラジオを聴いたり、百度等の中国検索エンジンや、微博・テンセントなどのSNSを活用して、現地情報や流行を掴んでおけば良かったと思います。

2. 留学先大学について

(1) 留学先大学の授業や教授等についての印象や感想

語学クラスは10段階のレベル別で各20人程度の少人数運営です。ちなみに私にいたクラスの日本人は2~3人でした。授業のスピードは速いですが、先生方の指導は上手なので理解しやすいと思います。授業後の質問も受付してくれるので、分からないことがあってもその場でちゃんと聞けば疑問を解消できます。定期テスト以外にも宿題や小テストが頻繁にあるので、良い意味で半強制的に内容理解が進み、学習のモチベーションを保つことができます。

クラス変更や授業聴講追加にも柔軟に対応してくれます。定期テスト以外でも常時クラスの上げ下げや受講追加ができるので、学生それぞれの目標に対してきめ細かい配慮がなされていると思います。

(2) 留学先大学のキャンパスや施設についての印象や感想

キャンパス・施設は広々としており隅々まで清掃が行き届いて快適です。キャンパス内に学食・自習室・ATM・コンビニ・写真店・宅配便荷物受取所等、生活に必要なものは概ね完備されており、日常の生活は学校から出ることなくほぼ完結することもできます。

(3) 留学先大学の留学生に対するサポート体制について

語学面：留学生を対象とした語学補習講座のようなものが授業として或いは授業外で開講されているのかどうか、また開講されている場合は、その時間数や内容、費用等について書いてください。

私が学んでいる国際文化交流学院は、中国全土共通で外国人向けの「中国の主要高等教育機関の大学内にある語学学校」という位置付けです。中国で留学生を受け入れている大学の語学サポートは全面的に当学院が受け持っています。語学を学びながら復旦大学の本科生の授業を聴講することもできますし、当学院で中国語を学んでから試験を受けて4年制の本科生に移る選択肢もあります。

生活面：生活面のサポートや留学生向けのイベントについて書いてください。

協定留学生には、留学前から同大学の中国人学生がバディとして付いてくれます。入学直後の身の回りのことを助けてもらったり、わからないことを聞いたりできるので大変ありがたい存在です。学校施設の大半には中国語のほか、英語の案内もあるので、中国語能力が不完全でも必要最低限の生活は送ることができると思います。

留学生向けに、文化体験やスピーチ大会、運動会等の多数のイベントを開催しています。体験する内容は毎回違いますが、文化体験については週に1回開催されています。

ちなみに、大学ではサークル活動も行われています。卓球や太極拳といった中国のお家芸のような団体もあれば、その他スポーツ全般や国際交流、ヨガ等の団体もあります。ただ、復旦大学はあくまで学業が最優先なので、日本のような活発なサークル活動はなく、また、体育会のようなスポーツの目標を持ってハードに活動する組織もありません。

資金面：現地で得られる奨学金等の情報があれば書いてください。

中国政府や孔子学院からの奨学金に応募することが可能です。また、条件を満たせば学内における成績優秀者の奨学金も申請することができます。ただ、いずれも難易度は高い

とされています。

(4) 留学先大学周辺の治安について書いてください。

上海は、中国きっての国際都市で経済的にも発展しているので治安は安定しています。そもそも中国は日本より警察官が多いことや、監視カメラが町中に張り巡らされていることもあり、日本と同等以上に安全かと思えます。夜間にいきなり見知らぬ人に声をかけられる事もまずありませんので、女子1人で町を歩くこともできます。他方、交通マナーに対する意識が低いので自転車や歩行者は注意が必要です。また、路上に唾を吐く人が結構いるなど、日本ではあまり見られない一面はあります。

(5) その他留学先大学についての印象や感想があれば書いてください。

留学生の出身国は、韓国人が最多で次が日本人です。東南アジア諸国や欧米の人もいます。日本人大学生には、グローバル系学部や中国語学科から集団留学している方が多数いました。学習院大学から来た日本人は私だけでしたが、近場の大学ですと、日本女子大学の方がまとまって留学していたほか、早稲田大学からの留学生も多くいました。ご親族が中国出身であったり、住んだことがあるなどご縁のある方が結構いました。

大学内の費用支払に、VISA や Master など欧米系ブランドのクレジットカードは使えません（使えたと書いてあっても使えないことが多いです）。寮費などの支払いで大きなお金が必要となることがありますので、中国に到着したら、まず現地銀行（ICBC：中国工商銀行など）に銀行口座を開設のうえ（キャッシュカードとインターネットバンキング）、微信支付（WeChatPay）と支付宝（Alipay）を登録して、仮想通貨での決済を出来るようにすることを進めます。

(6) 留学先での履修科目等

※本学での単位認定に関係なく、①に派遣先で履修した科目名をすべて記入してください。単位が認定された場合は、その科目の②に本学での科目名を記入してください。行は適宜追加してください。

※成績証明書を添付してください。

①留学先での履修科目名（単位数）	②本学で単位認定された科目名（単位数）
精読(五) ※文法中心の読解力	中国語 R(中級)
精読(六)	〃
精読(七)	中国語 R(上級)
精読(八)	〃
听力(五) ※中国語のリスニング	中国語 C(中級)
听力(六)	〃
听力(七)	〃
听力(八)	〃
口语(五) ※中国語のスピーキング	中国語 C(中級)
口语(六)	〃
口语(七)	〃

口語(八)	//
写作(五) ※中国語のライティング	中国語 C(中級)
写作(六)	//
写作(七)	//
写作(八)	//
泛读(五) ※長文読解力	中国語 R(上級)
泛读(六)	//
泛读(七)	//
泛读(八)	//

計 12 単位(2 単位×6 コマ)

3. 宿舎について

(1) 種類

大学の寮 / アパート / ホームステイ / その他 ()

(2) 家賃

月額 (現地通貨) 、(日本円)

(3) 食事

食事付き (朝・昼・夕) / 自炊 / その他 (学食・外食)

(4) 大学までの交通手段、所要時間

徒歩 / 自転車 / バス / 地下鉄 / その他 ()、

(5) 感想、良かった点・悪かった点

大学敷地内にある留学生向けの宿舎の一人部屋に住んでいました。比較的広々 (7-8 畳) としており、ベッドや机は備付けで、シャワーとトイレも室内にあり、暮らしやすかったです。洗濯機と共同台所も同じフロアにあるので、買い物以外は概ね寮の中で完結できます。

教室までは基本的には歩いていきますが、敷地が非常に広く約 15 分かかるので、天候や時間によってはシェア自転車を使っていました。ちなみに、学校の外は道幅の割に交通量が多く、大学病院に来る車両の出入りも激しいため、極力、校内を移動した方が安全です。

寮のすぐ近くの学食があり、6 元前後 (@1 元=17 円とすると約 100 円) で食べることができます。中国各地の料理のほか、日本料理や洋食もあり非常に種類が豊富です。朝から営業しているので朝食もここで食べられます。夜は閉まる時間は 19 時と早めです。

4. 費用について

(1) 学 費

(現地通貨) 、(日本円)

(2) 渡航方法と金額

飛行機 / 船舶 / その他 ()、(日本円)

(3) 生活費

(現地通貨) 月額・年額 約 9,000 元、(日本円) 約 150,000 円

※ 宿舍費を含めた金額を記入してください。

(4) 費用の持参方法

国際キャッシュカード (三井住友 VISA デビット)

クレジットカード (Master、VISA、銀聯)

国際ブランドプリペイドカード (NeoMoney (クレディセゾン))

現金 (10 万円程度) / その他 ()

⇒ その方法についての感想、良かった点・悪かった点

日本の銀行であらかじめ人民元に交換しておいて良かったと思います。学校入学手続きや居留手続きの際は、現金しか使えないケースが多々あるので、最低でも「最初の生活費 1 ヶ月分 + 諸手続きに必要な額」は用意しておくで安心です。なお、中国の銀行でも日本円から人民元に交換することも可能ですが、パスポートだけでなく、マイナンバーカードも必要になる場合があります作業が煩雑です。

(5) 「学習院大学海外留学奨学金」を受給した場合、その主な支出内容と金額の内訳

20 万円の支給を受けました。全額を現地での生活費に利用しました。

5. 保険について

(1) 保険会社名

ジェイアイ傷害火災保険

(2) 保険料

約 22 万円

(3) 加入した保険の種類、内容

海外旅行保険

(4) 感想、良かった点・悪かった点

万が一怪我や病気をした時でも指定病院に行けば実質無料で治療が受けられるタイプの保険です (お世話になる機会はありませんでした)。

6. 荷物について

(1) 荷物の送付方法

手荷物 / 船便 / SAL 便 / 航空便 / 海外宅配便 / その他 ()

(2) 持って行って良かったと思う物

コンタクトレンズ、スキンケア用品、スニーカー以外の革靴など、日本のおやつ、Wi-Fi ルーター

(3) 持って行く必要が無かったと思う物

消臭剤、衣料洗剤

(4) 持って行けば良かったと思う物

紙の中国語辞典

7. 平日および週末の平均的な過ごし方

(1) 平日

午前中と午後一までは授業があります。授業終了後は教科書の復習・宿題・読書をして夕方まで過ごします。基本パターンは、月・火・金は友人と食事、水曜日は日本人駐在員のランニング団体での陸上練習、木曜日は語学交流会に参加していました。

(2) 週末

昼食は学食が閉まっているので、校外の安い食堂で済まします。夜は、主に土曜日は語学交流会に参加していました。日曜日は、午前中に日本人駐在員とのランニング団体で約 20km を走っていました。その後は駐在員や友人と食事に行きます。

また、平日とつなげて上海以外の遠方に旅行に出かけることもよくありました。留学中に旅行した都市はハルビン・長春・北京・青島・南京・無錫・杭州・蘇州・黄山・武漢・西安・重慶・生徒・桂林・広州・厦門・金門島台北・台中・香港・澳門です。

8. 後輩へのアドバイス等

復旦大学は上海でトップの総合国立大学として、中国全土から優秀な学生が集まっています。その優秀な中国人本科生と同じキャンパスで過ごすことができることは非常に刺激的で恵まれた環境です（近隣にある上海外国語大学や上海交通大学は外国人と大学院生は別キャンパスになっています）。この復旦大学の利点を生かして、積極的に現地の方（特に中国人本科生）との交流を持つことをお勧めします。

また、上海は既に東京を超えた国際都市となっていますので、様々な国籍やバックグラウンドの方と出会うことができます。日本人駐在員の方々も大手企業の優秀な方ばかりですので、人脈作りに有用かと思えます。ぜひ、留学生だけと関わるのではなく、様々な年齢層の方との交流に挑戦してみるとよいでしょう。

また、中国に行く前に中国のアプリやニュースに触れることは日本にいながらにして中国を知る重要な手段です。中国語の勉強にも大変役に立ちます。あと、ぜひ日本のサブカルチャーを知っておくとよいです。日本語をある程度話せる中国人の知り合いから今まで聞いたこともないようなアニメ・マンガ等の名前が多数出てきて慌てて調べたことがよくありました。

9. その他、雑感や要望など書きたいことがある場合は自由に書いてください。

上海留学中に、何とか HSK6 級まで取得することができて中国語学習の目標はクリアすることができました。ただ、出発する前に立てていた目標の 1 つである中国語で中国の法律や経済の勉強をする段階までは届かなかったのが、帰国後も学校関係の行事や語学交流会に参加するなどして、中国関係のかかわりを積極的に持っていきたいと思います。

学習院大学からの留学に際して、私は法学部の法学科より協定留学をしました。法学科の授業は1年の通年授業で単位取得できるものが多い一方、中国の大学暦は日本と反対の9月始まり6月終わりなので、通年の法学科の必須教科はすべて継続履修という形で留学前の半期・留学後の半期を合わせて通年授業として受けています。帰国した現在、継続履修をした教科の復習が結構大変で、4年での卒業を目指していますがもう1年かかることも想定しています。9月からの協定留学に行く方は少しでも、留学前の4月から7月までの間になるべく半期で単位が取れる教科をたくさん取った方が良くと思います。

最後に、留学準備から留学中、帰国後も丁寧にサポートいただきました国際センターの皆様をはじめ、数多くのアドバイスやご支援をくださった村山教授・小野先生・学校事務局の皆様、大変ありがとうございました。